

- 問1 冬の北海道において、流水が地域の産業や生活に与えている側面について述べたものとして正しいものはどれですか。 （2026年 愛知県公立入試 類似）
- 海面が氷で覆われることで魚の回遊が促進されるため、冬の時期にオホーツク海での大規模な漁船漁業が最も盛んになる。
  - 氷の重みを利用して港の海底を深く削り取る天然の浚渫（しゅんせつ）効果があるため、大型船の入港を助けている。
  - 流水に含まれる豊富な塩分を精製して塩を作る工場が沿岸部に多く建設され、冬の主要な地場産業となっている。
  - 氷を割って進む砕氷船の運航や流氷の上を歩く体験など、冬の貴重な観光資源として活用されている。
- 問2 日本の都道府県別の統計において、北海道の耕地面積は全国の約25%という広大な面積を占めていますが、農業産出額の全国シェアは約13.5%となっています。この数値の比較から読み取れる、北海道の農業の特徴として適切なものはどれですか。 （2021年 兵庫県公立入試 類似）
- 耕地面積は非常に広いが、農業産出額の合計は全国の都道府県の中で最も低い水準にある
  - 耕地面積と農業産出額のどちらも、全国の約半分以上を占める圧倒的な規模である
  - 広大な耕地面積を有しているが、面積の割合に比べると農業産出額の割合は低くなっている
  - 耕地面積の割合よりも、農業産出額の全国シェアの方が高くなっている
- 問3 北海道に古くから居住し、自然を敬う独自の文化や独自の言語を持っている先住民族を何と呼びますか。最も適切な名称を選択してください。 （2026年 愛知県公立入試 類似）
- スラブ民族
  - アイヌ民族
  - ラテン民族
  - モンゴル民族
- 問4 北海道の歴史や文化において、古くからこの地に居住しているアイヌの人々に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。 （2016年 群馬県公立入試 類似）
- 江戸時代に徳川将軍家から北海道の支配権を認められ、松前藩を組織して交易を独占した一族である。
  - 明治時代に北海道を開拓するために、農業を行いながら北方警備を担当した人々である。
  - 鎌倉時代に本州から渡り、北海道南部の館（たて）を中心に和人の勢力を広げた武士の集団である。
  - 独自の言語であるアイヌ語を持ち、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育んできた先住民である。
- 問5 北海道の道央部に位置し、広大な石狩平野の中に広がる北海道の道庁所在地について、その都市名と特徴を説明したものとして正しいものはどれですか。 （2025年 茨城県公立入試 類似）
- 札幌市は、道庁所在地として政治・経済の中心地となっており、冬には石狩平野の積雪を利用した「雪まつり」が開催される。
  - 函館市は、道南地方の政治の中心地であり、青函トンネルを通じて本州との結びつきが強い道庁所在地である。
  - 旭川市は、石狩平野の南端に位置する道庁所在地で、周辺では大規模な稲作が行われている。
  - 釧路市は、道東地方の石狩平野に位置する道庁所在地で、霧が発生しやすい気候を利用した乳牛の飼育が盛んである。
- 問6 北海道の東部に位置する根釧台地などの寒冷な地域において、乳牛を飼育して生乳や乳製品を生産する農業を何といいますか。牧草などの飼料生産と組み合わせられていることが特徴です。 （2018年 長野県公立入試 類似）
- 放牧
  - 促成栽培
  - 酪農
  - 果樹農業
- 問7 北海道の石狩平野では、かつて稲作に適さない水分を多く含んだ泥炭地が広がっていました。この土地を農地に変えるために、他の場所から性質の異なる土を運び入れ、もとの土と混ぜ合わせて土壌を改良する方法が行われました。この技術の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。 （2024年 福島県公立入試 類似）
- 客土
  - 干拓
  - 開拓
  - 輪作
- 問8 日本の各地域の農業を比較した統計において、北海道は農業従事者一人あたりの農業産出額が約1570万円となっており、他地域の平均である約310万円と比べて極めて高い数値を示しています。このような北海道の農業を支える背景として最も適切なものはどれですか。 （2024年 福岡県公立入試 類似）
- 農業従事者一人あたりの耕地面積が非常に広く、大型の機械を導入することで生産性を高めている。
  - 都心に近い立地を活かし、限られた土地に多くの労働力を投入して単位面積あたりの収益を上げる集約的な農業を行っている。
  - 傾斜地の多い地形を活かして段々畑を作り、果樹などの高付加価値な作物を少人数で栽培している。
  - 気候が温暖であることを利用し、ビニールハウスなどの施設を用いて他の地域より出荷時期を早める促成栽培が主流である。
- 問9 北海道の東部に位置し、北方領土を間近に望むことができる岬の名称と、その周辺に広がる日本最大の湿原であり、タンチョウの生息地としてラムサール条約にも登録されている場所の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。 （2021年 鳥取県公立入試 類似）
- 知床岬と石狩平野
  - 宗谷岬と釧路湿原
  - 納沙布岬とサロベツ原野
  - 納沙布岬と釧路湿原
- 問10 十勝平野の畑作では、同じ土地で種類の異なる複数の作物を数年周期で順番に栽培する「輪作」が行われています。このような栽培方法をとる主な目的として、最も適切な理由を説明したものはどれですか。 （2022年 和歌山県公立入試 類似）
- 年ごとの農作物の市場価格の変動に合わせて、最も収益の高い作物だけを育てるため。
  - 特定の作物を続けて作ることで発生する連作障害を防ぎ、土壌の栄養分を維持するため。
  - 農機の稼働時間を減らすことで、大規模経営における燃料費などのコストを削減するため。
  - 北海道の短い夏において、複数の作物を同時に収穫して出荷作業の効率を上げるため。
- 問11 面積が約83,424平方キロメートルと都道府県で最大であり、多くの外国人観光客も訪れる北海道において、2005年に世界自然遺産に登録された半島はどこか。周辺にはラムサール条約に登録された湿原も存在し、豊かな生態系が守られている。 （2017年 愛知県公立入試 類似）
- 積丹半島
  - 下北半島
  - 根室半島
  - 知床半島
- 問12 北海道のオホーツク海沿岸で見られる流氷について、その発生と移動の背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。 （2026年 愛知県公立入試 類似）
- 北極海から流れ出した巨大な氷の塊が、親潮（千島海流）に乗って南下し、北海道の太平洋側に接岸する。
  - シベリアからの強い寒気によって凍った海水が、風や海流の影響を受けて南下し、北海道の沿岸に到達する。
  - アラスカ沿岸で発達した流氷が、偏西風の影響を受けて東から西へと移動し、北海道の知床半島周辺に漂着する。
  - 日本海側の対馬海流が強い寒気で冷やされることで氷が発生し、北西の季節風によって北海道の北部に押し寄せられる。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 4<br>氷を割って進む砕氷船の運航や流氷の上を歩く体験など、冬の貴重な観光資源として活用されている。            | 流氷は船舶の航行を妨げたり漁業を一時的に休止させたりする側面もありますが、一方で北海道を象徴する「観光資源」としての価値が高まっています。網走や紋別での砕氷船ツアー、知床での流氷ウォークなどは、冬の北海道観光の大きな柱となっています。                                                                                                                       |
| 問2  | 答え 3<br>広大な耕地面積を有しているが、面積の割合に比べると農業産出額の割合は低くなっている                 | 北海道の耕地面積は約1,147千haであり、全国の約4,496千haに対して約4分の1（25％）を占めています。一方で、農業産出額は約1,185十億円であり、全国の約8,798十億円に対して占める割合（シェア）は約13.5％にとどまります。このことから、北海道の農業は一戸あたりの経営規模が非常に大きいものの、単位面積あたりの収益性が高い施設園芸農業（ビニールハウス栽培）などが盛んな都市近郊の地域などと比べると、面積シェアに対する産出額シェアは低くなる傾向にあります。 |
| 問3  | 答え 2<br>アイヌ民族                                                     | 北海道には本州とは異なる歴史があり、古来より独自の言語や文化を育んできた人々が暮らししてきました。現代では、彼らの権利を尊重し、伝統を次世代へ継承するための取り組みが地理的・歴史的観点から重視されています。                                                                                                                                     |
| 問4  | 答え 4<br>独自の言語であるアイヌ語を持ち、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育んできた先住民である。     | アイヌの人々は、日本列島の北部や周辺諸島に古くから定住している先住民です。彼らは日本語とは系統が異なる「アイヌ語」という独自の言語を持ち、自然の中の動植物や現象を「カムイ（神）」として敬う独自の精神文化を持っていました。現在はその伝統や文化を保護・振興するための施策が進められています。他の選択肢にある屯田兵や松前藩などは、アイヌの人々とは対照的な立場や異なる歴史的背景を持つ集団です。                                           |
| 問5  | 答え 1<br>札幌市は、道庁所在地として政治・経済の中心地となっており、冬には石狩平野の積雪を利用した「雪まつり」が開催される。 | 札幌市は石狩平野に位置する北海道の道庁所在地であり、人口190万人を超える政令指定都市です。北海道の行政や経済の中核機能を持ち、毎年冬に大通公園などを会場として行われる「さっぽろ雪まつり」は、国内外から多くの観光客を集める一大イベントとなっています。                                                                                                               |
| 問6  | 答え 3<br>酪農                                                        | 乳牛を飼育して牛乳やバター、チーズなどの原料となる生乳を生産する農業を酪農と呼びます。北海道の根釧台地は、夏に気温が上がりにくく霧が発生しやすい寒冷な気候であるため、稲作などには向きませんが、牧草の生育に適していることから、自給的な飼料生産を伴う大規模な酪農が発達しました。                                                                                                   |
| 問7  | 答え 1<br>客土                                                        | 石狩平野などの低湿地には、枯れた植物が腐敗せずに堆積した「泥炭地」が多く分布しており、そのままでは水はけが悪く養分も乏しいため、稲作には向きませんでした。そこで、別の場所から肥沃な土や砂を運んでくる「客土（きゃくど）」という技術が大規模に行われました。これにより土壌の質が向上し、現在のような大規模な稲作地帯へと発展した歴史があります。選択肢にある「干拓」は海や湖を陸地にすること、「輪作」は同じ土地で異なる種類の作物を交互に栽培することを指します。           |
| 問8  | 答え 1<br>農業従事者一人あたりの耕地面積が非常に広く、大型の機械を導入することで生産性を高めている。             | 北海道の農業は、明治時代以降の開拓の歴史を背景に、他都府県と比較して一戸あたりの経営規模が非常に大きいのが特徴です。広大な耕地を効率よく管理するため、大型のトラクターやコンバインなどの機械化が進んでおり、その結果として、農業従事者一人あたりの生産額が他地域を大きく上回る大規模経営が実現しています。                                                                                       |
| 問9  | 答え 4<br>納沙布岬と釧路湿原                                                 | 北海道の最東端に位置する根室市の納沙布岬からは、歯舞群島などの北方領土を視認することができます。また、その西側に位置する釧路湿原は、かつての海が後退して形成された日本最大の湿原であり、絶滅危惧種であるタンチョウの繁殖地として国際的に重要な湿地であるため、ラムサール条約に登録され保護されています。                                                                                        |
| 問10 | 答え 2<br>特定の作物を続けて作ることで発生する連作障害を防ぎ、土壌の栄養分を維持するため。                  | 同じ土地で毎年同じ作物を栽培し続けると、土壌の養分が偏ったり、病害虫が発生しやすくなったりする「連作障害」が起こります。十勝平野では、ジャガイモ、てんさい、豆類、小麦などの異なる作物を順番に植え替える「輪作」を行うことで、土壌の肥沃さを保ち、安定した収穫量を確保する工夫がなされています。                                                                                            |
| 問11 | 答え 4<br>知床半島                                                      | 北海道の北東部に位置する知床半島は、流氷がもたらすプランクトンを起点とした海と陸の豊かな食物連鎖が評価され、世界自然遺産に登録されました。また、北海道には釧路湿原などラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）に登録された湿地が数多く存在します。                                                                                                    |
| 問12 | 答え 2<br>シベリアからの強い寒気によって凍った海水が、風や海流の影響を受けて南下し、北海道の沿岸に到達する。         | 流氷の形成には、シベリア大陸から吹き付ける非常に冷たい空気が不可欠です。この寒気によってオホーツク海の塩分濃度が低い表面層が凍り、それが北西の季節風や海流によって南へ運ばれることで、北海道の北東沿岸にたどり着くという仕組みになっています。                                                                                                                     |